

大人への旅立ち

一七八名祝う

一月十五日の成人の日に、東陽小体育館で一七八名(男八六名、女九二名)の大人への出発を祝う成人式が行われました。

成人者を代表して川野吉雄君が感謝の言葉を述べ、意見発表では、三名の方々が、力強く成人の感想を発表しました。記念講演では、鈴木正先生のお話しに、耳を傾け熱心に聞き入っていました。

当日は、薄雲りの日は寒い天候でしたが、華やかな着物姿に会場は春を想わせるふんいきとなりました。成人者の希望に満ちあふれた顔は、将来に向かって一歩一歩前進を始め

責任ある自由な行動を

篠本 越川 篤子



成人式を迎えるに当って私は、成人ということを改めて考えてみようと思います。

成人すると社会的にも法律的にも一人前の大人であることが認められ、自分の考えで自由に行動す

ることが出来ます。自由に行動できることは、すばらしいことだと思います。しかし自由には必ず責任が伴いますので、それだけ厳しさが加わります。

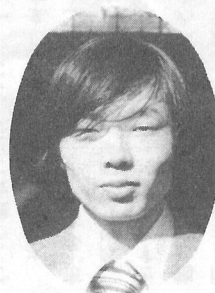
大人として責任を持って生きて行くことを具体的に考えてみました。私達をとりまく人達の恩恵なしには一日たりとも生きて行けません。それならば自分も人のために尽くせる人間にならなければなら

ないと思います。持ちつ持たれつ自分が存在していることを強く意識いたします。

しかし、未来は大きく広がっています。限りなき未来に向かって少しづつ前進して行くよう努力しようではありませんか。

理想や夢を現実

古屋 大木 薫



このような状況下に於て、私達が成人として社会のために少しでも貢献できれば、いや貢献しなければなりません。

私は、人間として生まれて来た以上、社会の一員として立場を考え、私なりに生活、仕事に対して責任を持ち行動したい。

社会の人々から祝福をうけ、成人の日を迎える自分達の幸せをかしめ、今後は大人としてその責任を果たしたいと思います。

現在の日本の社会状況は、経済的にみると戦後の不況としては、企業の倒産が最高であり、不況の中でも物価は上昇しています。

人生の区切り

長塚 吉田久美子



と思います。

中学あるいは高校までは、みんなが同じレールの上を歩いて来た訳ですが、二十才ともなるとすでに働いている人もいます。職業人としてあるいは学生として、それぞれの立場で成人を迎えました。これからは、あらゆる方面に自分達の力を発揮できるのです。

児童手当

申請は早目に!!

十八才未満の児童を三人以上養育している家庭で、そのうち一人以上の義務教育終了前の児童がいる家庭は、この対象となります。

三人以上の児童のうち、出生順に数えて三人目以降でありかつ義務教育終了前の児童一人につき手当の額は、月額五千元です。

まだ、申請していない方は、至急手続きを済ましてください。くわしくは厚生課福祉係へおたずねください。(旬)二〇四一〇三

心配ごと相談日

毎週水曜日
午後1時～3時30分
役場相談室

(西側入口を御利用下さい)

父母の年代から見ると、何不自由なく育ってほんとうに幸せだ、と思われるでしょう。幸せな時代に生まれて来たからこそ一人一人が自分の力を自由に発揮し努力していかなければならないと思います。

これから先、色々な人生のくじりがあるわけですが、その一段階を今、私達は迎えたのです。